

「エリコの城壁を崩落させたもの」(2021.9.19)

角笛が鳴り渡ると、民は鬨の声をあげた。民が角笛の音を聞いて、一斉に鬨の声をあげると、城壁が崩れ落ち、民はそれぞれ、その場から町に突入し、この町を占領した。

＜ヨシュア＞6：20

ヨルダン川を渡り、イスラエルの民が最初に占領すべき町がエリコだった。この町は堅固な城壁で囲まれていて、城門を閉ざすとだれも出入りできなかった。しかし、上掲のように城壁は崩れ落ち、イスラエルの民はここを占領したのである。

ここで民がなしたことは、契約の箱を先頭に、一日一回城壁を周り、7日目には7回周り、ヨシュアの合図で鬨の声をあげたことだった。それが主なる神の命令だった。約束の地に導かれた神への信仰の応答がここにはある。



どんな壁も神の前には壁ではない。私たちの明日をふさぐ壁がどんなに高く堅固でも、神の力の前には低くもろいのである。では、その神を動かすものは何か？それは私たちの信仰による応答である。もちろん、私たちの信仰とその行い自体は堅固な壁の前には無力である。でも、そこに聖霊が働き、そこが聖霊の場となる時、奇跡は起こるのだ。からし種の信仰であっても、聖霊が働かれると山さえ移す（マタイ 17：20）、とイエス様が言われたように。

コロナ禍、集まって礼拝できることだけでも感謝である。しかし、時が良くても悪くてもみ言葉を宣べ伝えることが、教会存立の目的の一つだ。この感染症と言う大きな壁は、私たちの前に立ちはだかり、私たちを臆病にさせる。でも、からし種の信仰をもご覧になる主を信じて、今できることをしようと横手教会は踏み出した。

一つは、かまくら FM による礼拝案内の CM 放送である。毎週土曜日 10 時 29 分に流れている。半年間の契約である。先日、初めてお会いした方から「CM 聞いたよ」と言われ嬉しかった。また、今月 19 日には教会案内チラシがさきがけ新聞の折り込みとして届けられる。旧横手市内と山内地区で 9670 枚が購読者の目に触れる。どのように用いられるかは主に期待しお任せしたい。もしかして、主は教会のホームページに導かれるかもしれない。スマホ対応にも更新しておきたいと思う。

これらの営みが活かされるよう、主に望みを置いて、大胆に祈っていきましょう。